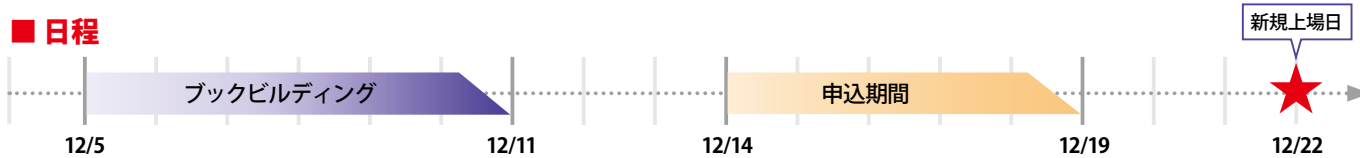


IPO銘柄 ミダック (6564・名証2部)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹証券
6564	100株	公募: 18.20万株 売出: 15.00万株 (OA4.98万株)	1,200円~1,300円 (12.2倍)	岡三証券



静岡県の廃棄物処理事業者

■ 事業内容

産業廃棄物、一般廃棄物について、処分、収集運搬、仲介管理などの事業を手掛ける。廃棄物の中間処理では、排出事業者から排出された廃棄物を処理施設で処理。最終処分に先立って脱水、焼却、中和等により、減量化、性状の安定化を行う。廃棄物の最終処分ではリサイクルが困難な廃棄物などを埋め立てている。所有するのは、安定型最終処分場及び管理型最終処分場で、許可については優良産業処理業者認定制度に基づき優良認定を受けている。静岡県浜松市に本社があり、主要営業エリアは関西から関東まで。18年3月期第2四半期の売上高構成比は廃棄物処理事業が77.3%、収集運搬事業が16.4%、仲介管理事業が6.3%。

■ 特徴

「特別管理産業廃棄物処理業」の事業許可を取得しており、多種の廃棄物を中間処理できる施設を保有。焼却処理に関しては、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物、一般廃棄物の許可を取得し、地方自治体から処理を委託されることもある。

アナリストコメント

■ 定量分析

18年3月期の連結経常利益は前期比8.1%増の6億3,800万円を予想する。自社施設の稼働率向上、利益確保に向けて受注強化に取り組んでおり、受託量が安定的に推移。最終処分場を有する子会社ミダックはまなは販路拡大につとめ、売上高を大きく伸ばしている。

■ 定性分析

地方市場2部への新規上場案件は投資家の注目度が低く、初値買いが入りづらい傾向がある。高成長が期待できるビジネスモデルでもない。上場ラッシュの終盤戦の上場ではあるが、18日は同社の上場であるため、初値買いが分散する懸念はない。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は5億円弱。地方市場2部への新規上場案件としては特段の軽量感が乏しい。12月後半の上場であり、IPOラッシュの中で買い疲れ感が強まっていくことが想定されることもネガティブ。(小泉健太)

■ 類似企業

ミダック(6564・名証2部)	予想PER12.2倍 (仮条件上限)
タケエイ (2151・東証1部)	予想PER20.4倍
FUJIKOH (2405・東証2部)	予想PER10.4倍

■ 引受証券

岡三証券、SMBC 日興証券、SBI証券、マネックス証券、安藤証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
16年3月期(実績)	3,164	—	326	—	46	—	15.2	12.00
17年3月期(実績)	3,833	21.2	590	81.1	287	6.2倍	93.4	12.00
18年3月期(会社予想)	3,943	2.9	638	8.1	333	16.0	106.8	12.00

※ 16年3月期より連結決算
※ 17年7月に株式分割(1株→500株)を実施。16年3月期と17年3月期のEPSおよび配当金は遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
16年3月期	6,153	7,947	1,177	273	382.8	14.8	4.0
17年3月期	6,153	7,781	1,427	273	464.1	18.3	22.0

※ 16年3月期および17年3月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	フォンスアセットマネジメント	1,050,000	33.95
2	熊谷 勝弘	736,000	23.80
3	ミダック従業員持株会	211,500	6.84
4	熊谷 裕之	194,500	6.29
5	高橋 由起子	190,000	6.14
6	矢板橋 一志	182,500	5.90
7	名古屋中小企業投資育成	75,000	2.42
7	三菱東京UFJ銀行	75,000	2.42
9	静岡銀行	65,000	2.10
10	浜松信用金庫	50,000	1.62

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	矢板橋 一志
専務取締役	熊谷 裕之
取締役	武田 康保
取締役(管理部長)	加藤 恵子
取締役(経営企画部長)	高田 廣明
取締役(常勤監査等委員)	井上 正弘
社外取締役(監査等委員)	鈴木 典行
社外取締役(監査等委員)	福地 誠司

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。